

全家研の願い

10分よりそい、子どもには、 たのしい勉強を!



願いを叶えるために

① 子どもの話は目を見て、心で聴きましょう

② 家庭学習をする時間と場所を子どもと約束しましょう

③ 子どもを「ほめて」「みとめて」「だきしめて」育てましょう

全家研では、
10分よりそい運動を進めています。

1日10分、親子で向き合う時間をつくりましょう。朝の時間、家庭学習の時間、夜寝る前の時間など、10分間子どもの顔を見て会話を楽しみましょう。

「子どもには、たのしい勉強を」は全家研の願いです。楽しい勉強の入口は、認められ、ほめられることです。認め、ほめられてやる気が出ると「できた!」「わかった!」と勉強が楽しくなります。子どものいるすべての家庭に「10分よりそい、子どもには、たのしい勉強を!」のメッセージを発信していきます。



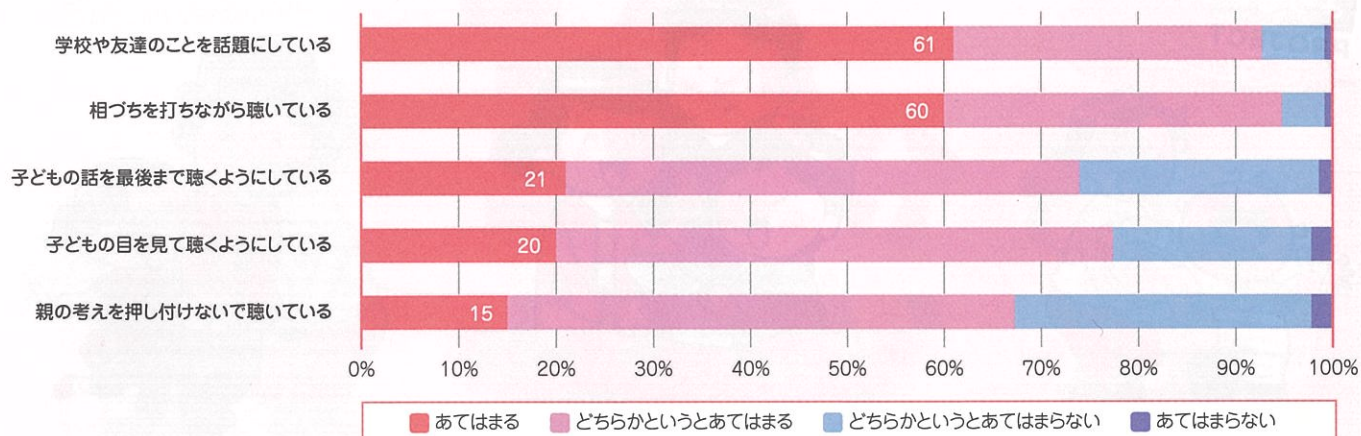


子どもの話は目を見て、 心で聴きましょう

..... 会話を引き出す力

子どもの話を心で聴くポイントは、「どんな気持ちかな」と子どもの気持ちに寄り添って10分、心で聴いてあげることです。「子どもの気持ち」より「話の内容」を知りたいと思うと、足りない部分について質問攻めにしまったり、途中で親の考えを押し付けてしまったりすることがあります。そんな時でも、子どもの目を見て聴いていると、最後まで聴くことができます。

会話を引き出す力



おうちの方が、園や学校の出来事を話題にして、「なるほど」「そう」とあいづちを打ちながら聴いている様子が伺えます。しかし、目を見て聴く、最後まで聴く、親の考えを押し付けずに聴くなど、子どもの話の聴き方が難しいという回答でした。互いに目を見て会話をすることは、安心感を生み、信頼関係の基盤となります。

会話を引き出す力のポイント

子どもから話しかけてきたら、 まず手を休めアイコンタクト！

何をしていても、いったん手を止めます。この動作で親子の距離はぐんと近づきます。そして、次はアイコンタクトです。



親の考えを押し付けずに、 最後まで聴く秘策！

それは、子どもの言った言葉を繰り返すことで、子どもを認める「オウム返し」の聴き方です。自然と子ども自身の考えが出てきて、最後まで聴くことができます。

- 子 今日ね、Kちゃんがね、僕の足蹴ったんだよ。
- 親 そう、足を蹴られたのね。
- 子 すごく痛かったんだ。
- 親 痛かったのね。
- 子 何で蹴ったのかな。
- 親 う〜ん、何で蹴ったのかな。
- 子 あした、Kちゃんに聞いてみよう。
- 親 そうだね。聞いてみるといいね。





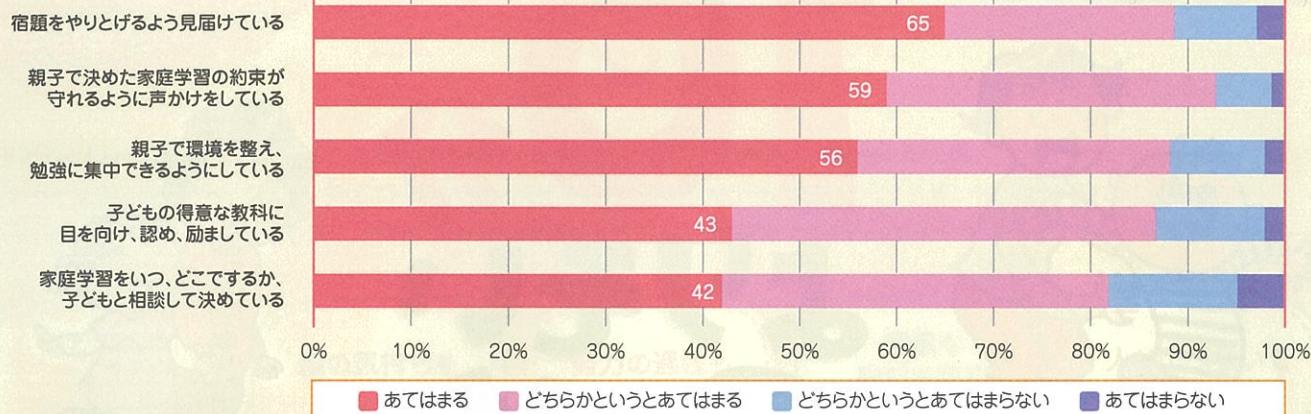
家庭学習をする時間と場所を 子どもと約束しましょう

..... 学びをサポートする力

大事なことは、いつも同じ時間に、同じ場所で家庭学習をすることです。

その約束を子ども自身が決めます。そして、時間になり、その場所に座れば、勉強モードにスイッチが入るように寄り添います。これが習慣づけです。低学年が初めの一步ですが、どの学年でも気づいた時がチャンスです。初めの10分、寄り添いましょう。

学びをサポートする力



宿題の見届けや家庭学習を始める声かけ、勉強の環境づくりを心がけているとの回答は高いですが、家庭学習の約束を、子どもと相談して決めている割合は低い傾向にあります。しかし、ここが大事なところ。おうちの方が、「こうしなさい」と言うのではなく、子ども自身がいつ、どこするかを決めます。このことが、約束を守る実践力につながります。

家庭学習をサポートする力のポイント

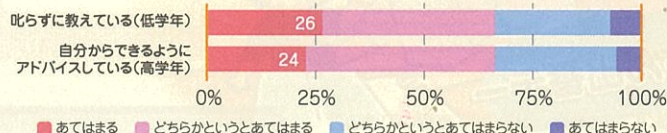
約束は「見える化」

決めた約束は、子ども自身が紙に書いて貼ります。他にも、カレンダーにできたらシールを貼るなどの「見える化」で、意欲的になり、習慣化につながります。



勉強の時は、叱らない 得意教科を伸ばす

学びをサポートする力



低学年では、「叱らずに教える」は、肯定的回答が一番低い結果となりました。できないところをわかるように工夫して教えるのは至難の業ですが、10分寄り添って一つほめるところから始めてみましょう。

高学年では、「自分からできるようにアドバイスをすることが難しい」という方が多いようでした。おうちの方はつい苦手な教科を勉強してほしいと考えますが、子どもの得意教科を認め励ますと、高学年では自分からやり始め、意欲的になります。



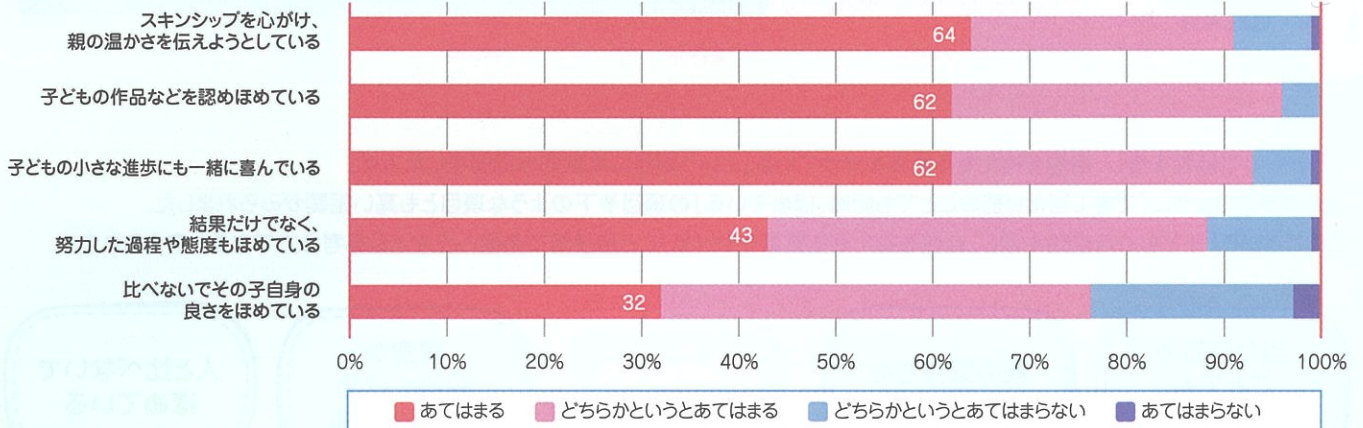


子どもを「ほめて」「みとめて」「だきしめて」育てましょう

..... 育ちを見守る力

ほめられることは意欲や自信になり、少し難しいことでも挑戦しようと思えるようになります。
たとえうまくいかなかったことでも、「今日は頑張ったね」と認められれば、向上心を燃やすことができます。
そして、抱きしめて、肌のぬくもりを通して愛情を伝えましょう。

育ちを見守る力



9割の家庭が「子どもの小さな進歩にも一緒に喜ぶ」と肯定的な回答をしています。また、スキンシップを大事にしている家庭像も見えます。子どもをほめる時に、結果が目がいりますが、努力した過程や態度をほめることや人と比較しないでほめると、子どもの自己肯定感が育ちます。

育ちを見守る力のポイント

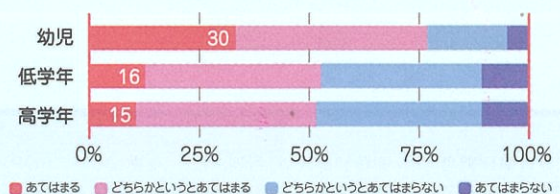


見た通りのことでもいいです。しっかりと言葉にして子どもに伝えます。



ちゃんと見てますよメッセージ

できて当たり前のことでも認め、ほめている



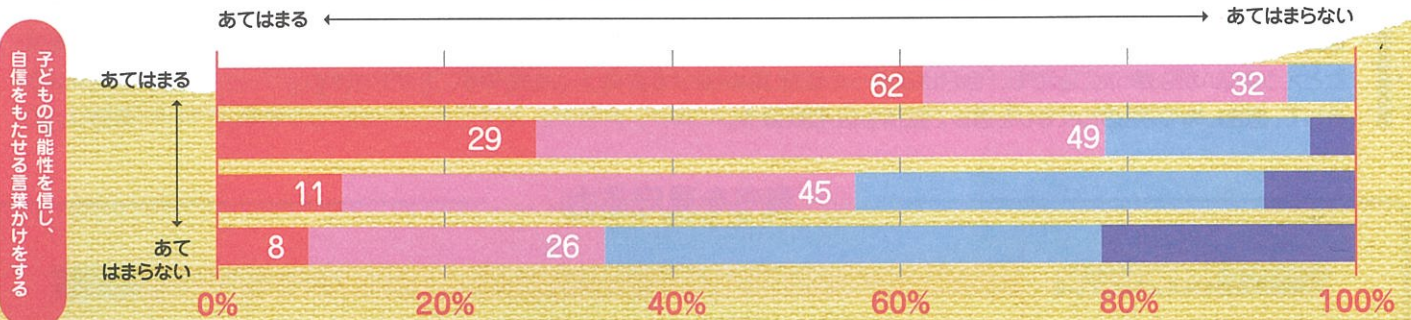
「できて当たり前のことでも認め、ほめている」は幼児では7割を超えていますが、小学生になると、約5割となります。

日常生活の中で、子どもができて当たり前のことでも、しっかりと言葉にして、子どもに伝えましょう。一番そばにいるおうちの方だからこそできる「ちゃんと見ていますよメッセージ」の寄り添いです。

どんなことでも、当たり前のことを当たり前に行えるようになることは、立派な自立です。

子どもの可能性を信じて 自信をもたせる言葉かけをしていますか？

できて当たり前のことでも認め、ほめる



「子どもの可能性を信じ、自信を持たせる言葉をかけている」という項目に肯定的な回答をした人は、上のグラフのように「できて当たり前のことでも認め、ほめている」の項目や下のような項目とも高い相関がみられました。このことから「子どもの可能性を信じ、自信を持たせる言葉かける」ことは子育ての最も土台となる考え方であると考えられます。

当たり前のことでも
ほめている

親の気持ちを
伝えている

努力の過程も
ほめている

得意な
教科を認め
励ましている

人と比べないで
ほめている

子どもの
良いところを
5つ以上いえる

絵や工作を
ほめている

夢を話し
合っている

目を見て
聴いている

子どもの可能性を信じた声かけ

- ◆ 君ならできるかもしれない!
- ◆ いいと思うよ。応援するわ!
- ◆ 頑張る力があるね。すごいよ!
- ◆ 大丈夫だよ!
- ◆ その夢、いいね!
- ◆ もう少し続けるといいね!
- ◆ あきらめないでやってみようよ!



全日本家庭教育研究会では、家庭学習教材『月刊ポピー』を通じて毎年POPY診断を行っています。2017年6月には、「親子のほどよい距離感」診断を行いました。幼児6,263名、小学校低学年5,689名、高学年2,480名のご家庭から回答をいただきました。この診断では、3つの観点(会話を引き出す力・学びをサポートする力・育ちを見守る力)から親子の関わりを分析いたしました。改めておうちの方が子どもに寄り添う大切さを考える機会となりました。本パンフレット掲載のグラフはすべてこの分析結果によるものです。子どもを持つ全家庭の皆様の一助になればと本パンフレットを作成しました。本パンフレットをご活用いただき、多くのご家庭がより良い親子関係を築いていかれますことを願っております。

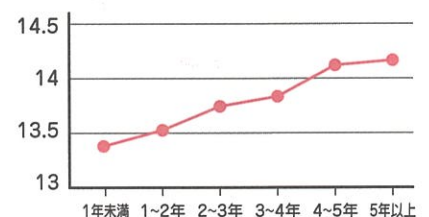
全日本家庭教育研究会について
詳しくは以下のサイトをご覧ください。

URL <https://www.popy.jp/company/>



このたびの調査では、ポピー会員としての継続年数が増えれば、親子間交流力も向上する結果がみられました。

親子間交流力(15点満点)と ポピー会員継続年数



10秒!

ギュー



10!!

家族読書デー



抱きしめ
スキンシップデー

毎月

10日

20日

30日

は、

10分 よりそい Day

いっしょに散歩デー



／ こちょこちょタイム! ／

こんな我が家の10分よりそいデーは
いかがでしょうか?

／ どんなことをしてるのか聞こう ／

お父さん出番デー



／ みんなの前で発表しよう! ／



1分間
スピーチデー

／他にも「家族歌合戦デー」「みんなでクッキングデー」「トランプデー」「お片付けデー」など、楽しく工夫してみましょう!／



あなたの家では、どんなよりそいデーにしますか?言葉や絵で書いてみましょう!